

八代市中心市街地に関する研究

さわラボ八代班 (澤田研究室)
 総合管理学部 3年
 西国栄祐 桑島晴加 齋藤希 坂田彩
 竹田翔吾 松永和生 横田和樹

研究の目的

大型ショッピングセンターの中心市街地付近への立地・商店街付近の私立学校の校舎移転など

↓

中高生の通行量減少・空き店舗の増加

↓

活性化計画策定にあたっての学生目線を取り入れた
 いのことで八代市から研究依頼を受ける

調査方法

- 現地調査
 目的: 現地を訪問して実際の現状を把握する
 日時: 2011年9月3日、9月19日
- アンケート調査
 目的: 中高生のニーズとアーケードに対する関心を調べる
 日時: 2011年10月下旬~11月上旬

現地調査

- 現地調査の写真



現地調査から分かったこと

- 若者向けの店が少ない
- アーケードの課題を店舗経営者や通行人も認識している
- 閉店時間が早い

アンケート調査

1・対象中学校・高校

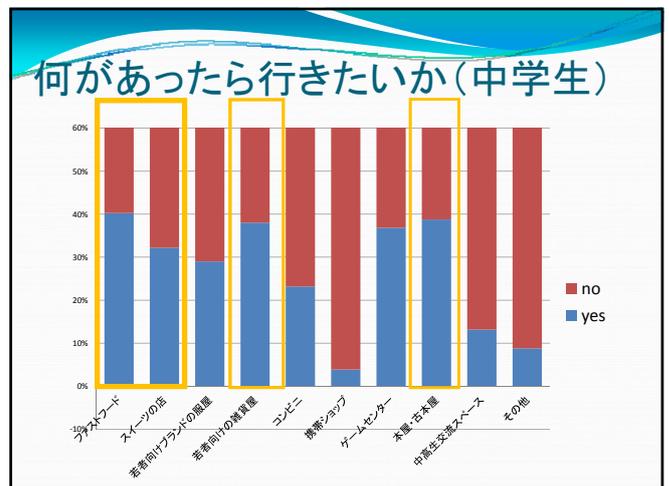
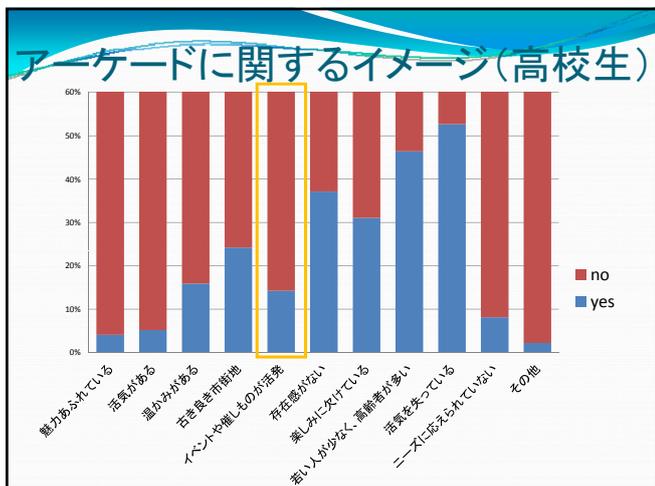
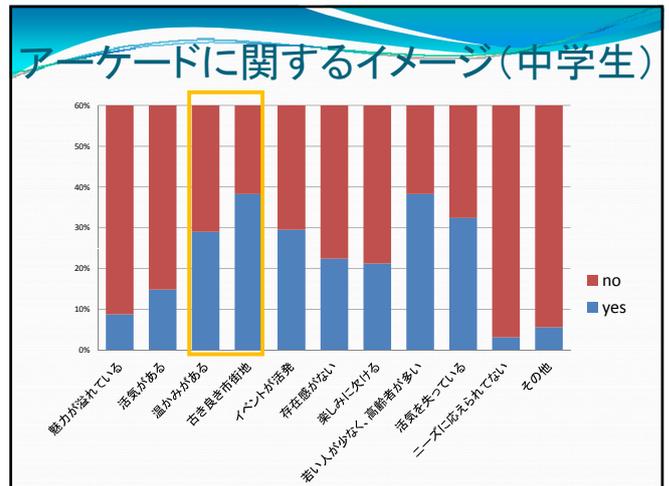
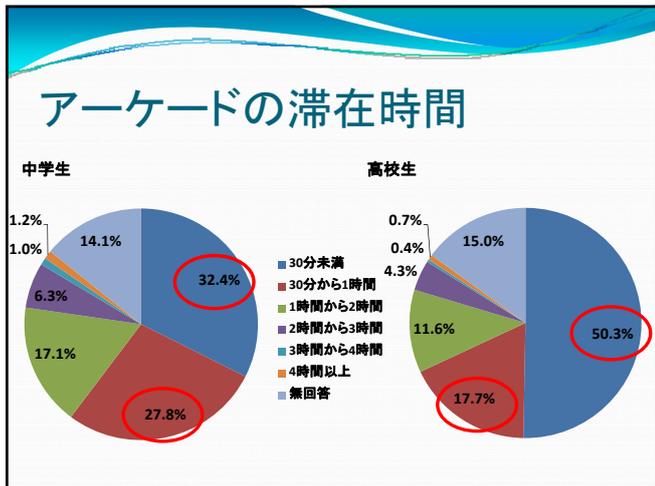
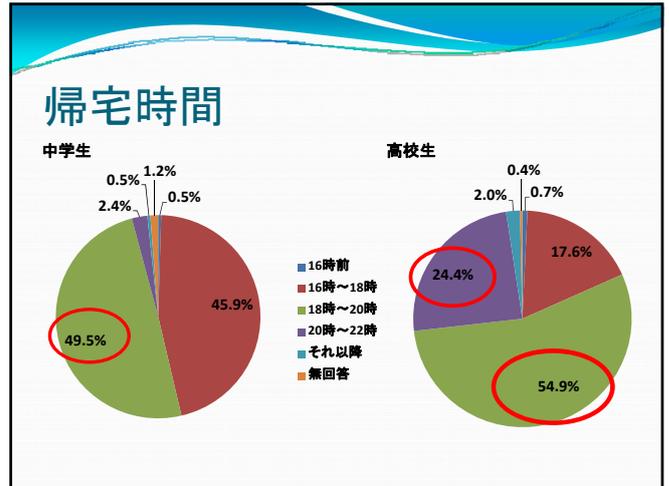
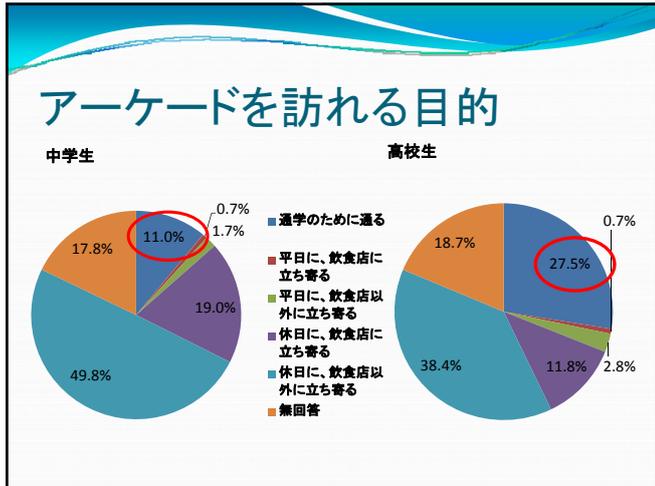
○中学校

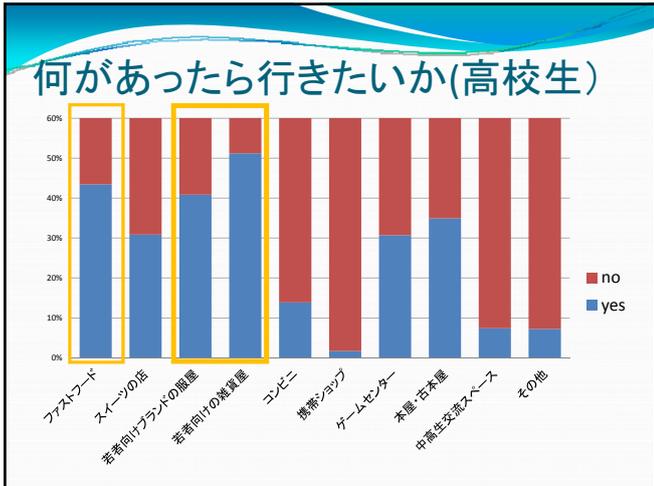
- ・県立八代中学校
- ・第一中学校
- ・第二中学校
- ・第三中学校
- ・第四中学校

○高校

- ・八代高校
- ・八代南高校
- ・八代東高校
- ・八代工業高校
- ・秀岳館高校

2・調査予定数: 1000名 内、集計数951名 回収率95.1%





アンケート調査のまとめ

- 帰宅する生徒が一番多い時間帯は中学生も高校生も18時から20時で高校生は、8割が18時以降。
- 中高生のアーケードの滞在時間が短い
- 中学生に比べ高校生は良いイメージを持っている人が少ない
- アーケードの店自体の周知不足

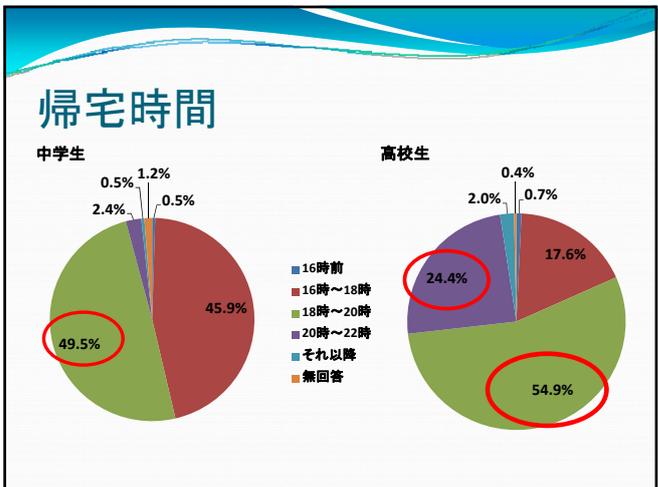
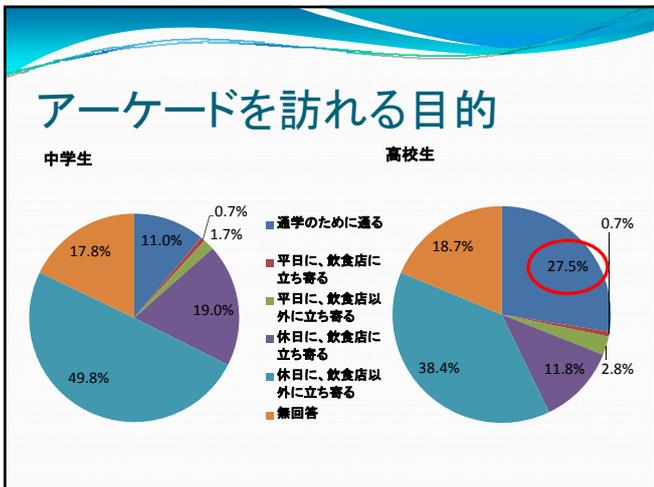
提言

- 夜まで店を開ける
- 若者が立ち寄れるスペースの設置を考える
- アーケードの店自体の周知
- 中高生と連携してシャッターを明るいイメージに変えていく

提言① 夜まで店を開ける

課題：中高生の帰宅時間が閉店時間以降

- 中高生が放課後に立ち寄れる
- 高校生の帰宅時に店が開いているとイメージが良くなる

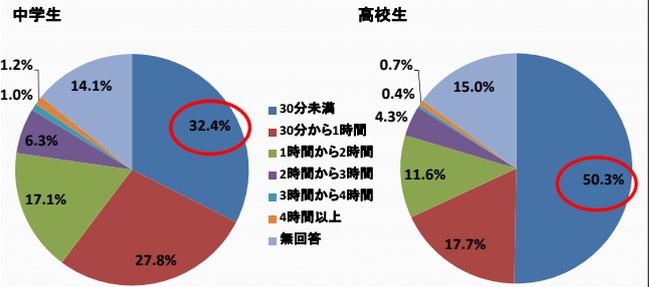


提言② 中高生の立ち寄れるスペースを作る

課題：中高生の滞在時間が短い

- 立ち寄れるスペースを目的とすることによって、通り抜けるだけでなく、商店街自体に進んで訪れるようになる

アーケードの滞在時間

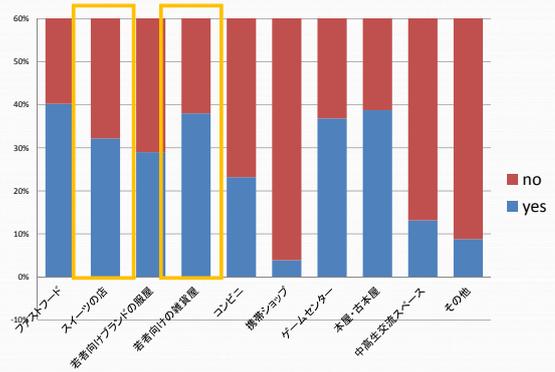


提言③ アーケードの店自体の周知

課題：アーケードにどんな店があるのか知らない

- 知らない人に知ってもらうのみならず、元々知っている人にも新たな発見をしてもらう

何があったら行きたいか(中学生)

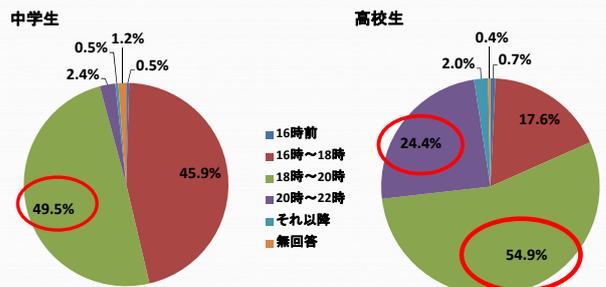


提言④ シャッターのイメージ改善

課題：シャッターが閉じていて全体的に雰囲気が暗い

- シャッターに絵を描くなどのイベントを中高生と一緒に行うことによって、雰囲気を明るくするとともに、中高生との繋がりを強める

帰宅時間



提言

- 夜まで店を開ける
- 若者が立ち寄れるスペースの設置を考える
- アーケードの店自体の周知
- 中高生と連携してシャッターを明るいイメージに変えていく

ご清聴ありがとうございました